

---

# 俺はもうすぐ死ぬ

メタかつ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺はもうすぐ死ぬ

### 【NZコード】

N3538D

### 【作者名】

メタかつ

### 【あらすじ】

癌の告知を受けた男、男の命の灯火はあとわずか…………人生最後の時間男は日記を書くことにした。人の終末期の精神変化を軸としました。感想頂けると助かります

12月6日～12月22日

――12月6日―― 日記何て書いたことが無いから何を書いたらしいのかな…とりあえず思つたことを書いていきたいと思つ。

今、俺は病院のベッドに寝ている。夜おふくろが涙を流していた……どうも俺は癌のようだ、それもリンパまで転移して持つて1カ月……だそうだ。主治医がたんたんと言つていた、でも俺には実感がない。

うへん、書くことないな……何で日記書いつと思つたんだろ？

――12月7日―― 体調はすこぶる良好。手の痺れは多少あるものの痛みは無い。多分何かの間違いだらう、俺は癌なんかじやないはずだ。

明日主治医に聞いてみよう。今日お袋、見舞いに来なかつたな……

――12月8日―― 今日、主治医に聞いた。俺は間違いなく癌なのだそうだ、完治は不可能だそうだ……まだ27だぜ？

でも、妙に落ち着いている人間とは以外に強くできているようだ。お袋がお見舞いに来たいつもと変わらず接してくれる。

――12月9日―― 体調はすこぶる良好。今日は手の痺れもなく食欲もある。ホントに俺は癌なのか？

今日は幸子がお見舞いにきた？ リンゴを剥いてくれた、幸子は俺の

「」とを胃潰瘍だと思つてゐる。お袋がいったのだろうか？結婚……  
…できるわけね～よな。

――12月10日―― 体調すこぶる良好。今日は朝から幸子が来て  
いた。散歩にいきハネムーンの話を楽しそうにしている……気  
が早い、結婚もしていないんだぜ？…………今日は疲れたので早めに  
寝ます。

――12月11日―― 今日は体がダルい。風邪でもひいたのだろうか？5時すぎ、幸子がきた少し喧嘩した。内容せんぐだらないので  
ここでは書きたくない。

――12月12日―― 特になし。

――12月13日―― 朝から体が痛い、正直ムカつく！ムカつく  
！ムカつく！

――12月14日―― 今日は朝から検査だ。看護婦いてーんだよ  
！下手くそが！俺は小さいときからいい子でいたんだ！いい学校も  
でた！親孝行もした！なんでこんな思いしないといけないんだ……  
本当だれか変われ！

――12月15日―― 全てがムカつく！！！体は痛いし、飯は  
まずい！皆殺しにしてやりたいお袋が泣いてたぜ！……一番辛いの

は俺だろ！

「！なんでお前が泣くんだよ。俺なんて生まれてこなけりや良かった！」

——12日19日——2日間、日記を書かなかつた……まいゝか正直日記を書く気になれなかつたし、精神的に疲れていた。今は丈夫！——いいもの見つけたんだぜ！癌に利くアガリスクというキノコだ！食べて3時間程で痛みが取れ癌が消えてくらしい…………。今、バリバリ食べる！更に聖書まで買った！——今日、幸子とクリスマスの予定を立てた。楽しみだ。

――12月20日――アガリスクの効果は特になし、ホントに効くのかな…効くよね?明日効くはずだ…

——12月21日——俺の癌は治らないらしい……アガリスクを食べでも無駄らしい。主治医が言つていた。俺は死ぬのか……死ぬんだよな……。幸子ごめんな。俺は死ぬみたいだ。本当ごめん。お前はスタイルいいし、かわいいし俺よりもつといい男見つけて幸せになれよ……。

死ぬとわかつてゐる男と付き合つてちやだめだ

——12月22日—— 今日は朝から幸子が病院にいる。幸子の笑顔を見ると、とても幸せな気分になる。幸子はクリスマスをとつても楽しみにしていた……

俺は幸子と別れようと迷つ……だってそうだろう? 俺には未来はないんだ、そんな男と付き合つてちゃだめだ。俺の事は忘れてくれ……俺が死んだことも忘れてくれな。

ただ、ただ、ただ幸せになつてほしい。

12月23日～12月31日

――12月23日―― 今日は朝から腰が痛い……どす黒い鼻血が止まらない、幸子が心配そうに見ていたよ。俺のことをまだ胃潰瘍と思っている……まあ俺にとつてはそう思つてくれた方が助かるが……

今日別れを言つつもりだったが、言えなかつた……言わなきやいけないよな……言わなきや……なあ……

――12月24日―― クリスマスイブ……俺は幸子に別れを告げた、俺は最低な男だ。

俺がいつた言葉

「おまえとは全て遊びだつた、もつおまえとは会えない」  
幸子は泣いていたよ

「酷い……本気だつたのに……どうして……」つむ。

俺だつて本当の事言いたかつたさ！でも本当のことと言つと幸子はずつと俺のそばにいるだろ？俺が死んでも俺の事を思い続けるだろ？  
幸子はそんな女だ……

だから俺の事を嫌つてほしかつた、最低な男と思つてほしかつた……

俺の事は忘れてくれ、おまえには未来があるんだ。幸せになつてくれ。未来のない俺なんか早く忘れてくれ……

「めんな、幸子……

――12月25日―― クリスマス…… かあ。去年のクリスマス

は幸子と楽しかつたな………… 映画見て、フレンチ食べて、朝まで一緒にいたなあ。あの頃に戻りてなあ………… でも何年振りかな家族と過ごすクリスマスって……でも俺にとつて最後のクリスマス………… 幸子……どうしてつかな？あいつも家族でクリスマス過ごしてるんかなあ～会いたいな………… 幸子に。

――12月26日――朝、幸子から電話があつた俺の事が忘れられないらしく別れないでほしい……と言つてた。俺はいつたよ  
「もう電話すんな目障りなんだよブス！」…………すくに電話が切れた。

こりや完全に嫌われたな………… それでいい。正月まで生きれるかな？

――12月27日――鼻血が止まらない………… 体を動かすたびに激痛が走る……今こうして日記を書いてるのも辛い、もつ日記を書く事は無理かもしけない…………

俺の人生は幸せだった……幸せな家族の元に生まれ一流大学まで行かせてもらつた……これから、これから親孝行できると思つたのに。お母さん、お父さん親より先に死んでいく息子でごめんなさい。本当にごめんなさい…………

――12月28日――どんどん痛みが増してくる……辛くてたまらない。もうすぐ俺は死ぬんだな？短かつたけど、とっても幸せな人生だった……でも一つ気掛かりな事がある、幸子のことだ……あいつに一言

「ありがとう」と言いたい。

「幸せになれ」と言いたい……出来るならあの小柄な体をギュッと

抱きしめたい。

かわいい唇にキスをしたい。  
出来るならずっとそこにいてほしい。

——12月29日—— 曜が霞んでくる…… 胸が焼けるよつにいた  
い……

痛い……痛い……痛い。

——12月30日—— 僕は朝、血を吐いた…… 看護婦が慌てていたよ…… 僕は……  
俺は……  
俺は……

——12月31日—— 大晦日…… 僕はもうだめだ…… 何となく分かることだ俺は今日死ぬ…… 幸子…… 僕の事はもう忘れられたか? もしまだ俺の事を思つてるならだめだぞ…… 早く忘れていい男見つけるんだ。そして幸せになるんだ。それが俺の最後の望みだ…… でも…… でも…… 最後におまえの顔を一目見たかった…… 愛しているよ幸子……

そして、お母さん、お父さん俺を生んでくれてありがとう。あなた達の息子で幸せでした……

こんな息子ですが最後の望みを聞いてください、この日記を読んだら燃やしてほしいのです…… そして幸子には私が死んだことは言わないでください…… お願いします。

私はあこいつの幸せだけ願っています。心配かけたくないのです……

では、お体に気をつけて

さよなら

## ペローグ

畳の匂い、焼香の匂いがあたりを漂っている。小さな茶の間である、真ん中にテーブルが一つ、向かう合ひ口にして喪服を着た女性が正座している。

「グスン…グスン…」

大学ノートである。喪服を着た女性がノートを握りしめ涙を流している…涙のせいなのか、ノートは見るからにボロボロに見える…

「幸子さん顔を上げて」

「……お母さん…」

「正直この日記をあなたに見せることは悩んだわ…息子の願い通り燃やして息子の死をあなたに言わないでおこう、とも考えたわ…でもね幸子さん……あなたには息子の本当の気持ちを知つてほしかつたの。息子がどういう気持ちで死んでいったか…」

「……」

「息子はあなたを心の底から愛していたわ、泣いてちゃだめよ…」

「……」

涙をぬぐつても、ぬぐつても止めどなく流れてくれる…

「息子はあなたの笑顔がとっても好きだったの、だから笑って、まだ息子を思つているなら笑つて幸子さん…」

幸子は顔を上げる、涙で回りがぼやけて見えるがそこには笑顔で幸子に語りかけるお母さんの優しい笑顔が見えた。

「息子と私の最後のお願いです…幸子さん、息子の事は忘れてください…あなたは自分の幸せだけ考えてください…

幸せになつてください……………」

幸子は頭を下げる。2人の間には永遠とも思える時が流れている…  
焼香の匂いが妙に鼻についたのだつた…

『お・わ・り』

## ハピローグ（後書き）

『俺はもうすぐ死ぬ』 読んでくださいありがとうございます。  
幸子を愛するが故に辛く当たつた男… 作者は愛するとはじついう物  
だと思います。

愛とは見返りを求めるもの……

愛とは自分を犠牲にしても相手のことを第一に考える。

ご感想、評価してくれたら幸いにおもいます。  
なお『ヘビメタ喫茶』も宜しくお願ひします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3538d/>

---

俺はもうすぐ死ぬ

2010年10月12日21時16分発行